

2020年1月1日～2025年12月31日の間に 当科において123I-MIBGシンチグラフィを受けられた方及びご家族 の方へ

—「123I-MIBG心筋シンチグラフィを用いたパーキンソン病疑い症例の鑑別診断における SPECT画像の有用性と臨床予後指標の検証」へのご協力のお願ひ—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学機能・代謝画像診断学 教授 福倉良彦
研究分担者 川崎医科大学機能・代謝画像診断学 特任研究員 竹内省吾
研究分担者 川崎医科大学機能・代謝画像診断学 臨床助教 古味和晃

1. 研究の概要

123I-MIBG心筋シンチグラフィは、パーキンソン病およびレビー小体型認知症の診断に有用とされ、従来は平面像から算出される心縦隔比およびウォッシュアウト率が主な定量指標として用いられています。しかし、その診断能は感度約80～90%、特異度約70～90%程度と報告されているものの、十分とは言えず、特にパーキンソン病とレビー小体型認知症との鑑別や予後予測に関しては未だ課題が残されています。一方、断層画像は三次元的な集積評価を可能とし、局所的な集積低下の検出やボリュームベースの定量解析が可能であることから、診断精度や予後予測能の向上が期待されています。本研究は、パーキンソン病が疑われ123I-MIBGが施行された症例を対象として、従来の平面像による評価に加え、SPECT画像を用いた三次元的定量解析と臨床指標（疾患期間、認知機能、幻視・注意力変動、自律神経症状、進行程度、治療反応）との関連および診断的有用性を検証することです。

今回の研究によって、パーキンソン病の診断精度の向上、レビー小体病との鑑別、重症度、治療抵抗性や予後予測因子の同定に寄与することが期待されます。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2020年1月1日～2025年12月31日の期間において、パーキンソン病が疑われ123I-MIBG心筋シンチグラフィが施行された方を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2027年12月31日

3) 研究方法

上記の研究対象期間に当院において取得された123I-MIBG心筋シンチグラフィの平面像と断層画像を用いて、局所的集積低下や三次元定量指標を解析し、臨床情報との関連および診断的有用性を検証します。

4) 使用する情報の種類

情報：年齢、性別、既往歴、疾患期間、認知機能、幻視・注意力変動、自律神経症状、臨床重症度、嗅覚機能、進行程度、治療反応性など

画像：123I-MIBG 心筋シンチグラフィ

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学機能・代謝画像診断学実験室内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2027年3月31日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院 放射線科（画像診断）

氏名：福倉良彦

電話：086-462-1111 内線 25502（平日：9時00分～16時30分）

ファックス：086-464-1123

Email：roentgen@med.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究は、学内研究費とPDRファーマ株式会社から提供される資金を用いて行われる予定です。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。